

山椒は小粒でも...



Vol.10

ラジオの向こうの鶴瓶さん



今時の中学生や高校生は、

どんな夜更かしをしているのでしょうか。携帯電話やスマホの出現により、その様子は一変したかと思えます。私の時代は、というところ、まずラジオの深夜放送が一番オーソドックスな夜更かしでした。

「ミッドナイト東海」をはじめ「オールナイトニッポン」、また関東方面の電波を求めて「ヤングタウン東京」や「パックインミュージック」など。私はなかでも笑福亭鶴瓶の「ミッドナイト東海」がお気に入りでした。

ある時期には毎週ハガキが読まれる常連となったこともありました。先日、NHK放送文化賞を受賞するなど、名実ともにビッグになってしまいました。当時はまだかけ出しの頃で、東京進出を果たす前、今思うとブレイク前の名古屋時代でした。

その中で一番心に残っているお話は、彼が落語家を目指

す。そうすることによって思わぬ接点や人脈をまわりの人からいただくことがあるように思えます。

約40年前の「オレ、落語家なるねん」という、教訓でもなんでもないひとことが、今だに自分の心に響き続けているのも妙な気がします。

この春から、新しいステータジで活動する皆さん、参考にしてください。「あれをした」「これをした」と言っている、自分のやりたい気分が高揚し、必ず協力者が現れます。「これあんな探しとるやつやん？」とか「参者になると思ってたっておいたよ・・・」と、物や情報が集まってくるものです。

3月の議会で新年度予算も通りました。鶴瓶の「落語家なるねん」は、私の「海藻やるねん」、「中央公園やるねん」、「鳥羽びと活躍やるねん」です・・・



鶴瓶さんのサイン (当時)



憧れのラジオ GXワールドポニー



Vol.168

市民課人権・生活係 ☎ ☎ 1126

「ヘルプマーク」

3月1日号の広報とばで「ヘルプカード」について紹介がありました。

ヘルプカードは、義足や人工関節を利用している人、内臓障がいや難病の人など、外見では分からない病気や障がいなどを抱えている人が携帯することで、周囲に手助けを必要とすることや、見えない障がいへの理解を求めています。

このヘルプカードには、赤地に白十字とハートマークが描かれており、赤色と十字マークは「助けを必要としている」という意味、ハートマークは「助ける気持ち」を意味しており、このイラストのことを「ヘルプマーク」といいます。

例えば電車やバスなどで優先座席に座っている際、「若いのに優先座席に座るなんて...

や「高齢者に席を譲らない不親切なやつだ」など言われのない誤解を受けることを防ぎ、外出先で倒れるなど不測の事態にも、このマークを見せることで、何らかの疾病や障がいを持っていることが一目で分かり、救急対応に役立ってくれる。

このヘルプマーク制度は、2012年に東京都が作成したもので、各地で導入が進んでいます。しかし、一方で実際に使用しているかたからは、「ヘルプマークをつけていても周りからはまだまだ理解を得にくい」といった声や「差別や偏見の対象になるのでは？」など、正しい理解と認知度の低さを嘆く声も聞かれるようです。ヘルプマークを普及させ、誰もが住みよいまちを作っていくためには、認知度の向上と同時に、障がいや疾病など援助を必要とするかたに対する社会全体のまなごしを変えていく必要があるのではないかと思います。



市ホームページ「ヘルプカードについて」